

短期予報解説資料 2025年11月7日15時40分発表

気象庁

1. 実況上の着目点

① 500hPa 5520m付近のトラフに対応して日本のはるか東を北東進しながら急速に発達中の低気圧から、前線が小笠原近海にのびている。

② 500hPa 5280m付近で-36℃以下の寒気を伴うトラフに対応する低気圧がオホーツク海を東北東進。上空寒気の影響で北日本では大気の状態が不安定となり雷を検知、北海道の山地では3時間で5～10cmの降雪を観測。

③ アムール川中流域付近の高気圧と①や②の低気圧や前線との間で西高東低の気圧配置となり、全国的にやや強い風や強い風が吹いて波が高くなり、特に北日本では非常に強い風が吹いて、しけている所がある。

④ 台風第26号がフィリピンの東を北西進。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の低気圧は8日にかけて、1項②の低気圧を取り込みながらカムチャツカの東へ進む。また、7日は500hPaで-36℃以下の寒気が、8日にかけて850hPaで-12℃以下の寒気が、北海道地方に南下する。北日本では、7日は上空寒気の影響で大気の状態が不安定となる所があり、8日にかけて下層寒気の影響で降雪となる所がある。落雷や突風、降ひょう、降雪や積雪による交通障害、着雪に注意。

② 1項③の高気圧は、8日にかけて三陸沖に移動し、9日は日本のはるか東に中心を移す。

③ 8日は、500hPa 5820m付近の正渦度移流に対応して、朝までに華中付近で発生する前線が、夜までに東シナ海にのび、前線上の東シナ海で低気圧が発生。9日は、東シナ海の低気圧が、西～東日本を東進。また、500hPa 5460m付近で-27℃以下の寒気を伴うトラフに対応して、朝までに沿海州付近に発生する低気圧が、サハリン付近に進み、寒冷前線が北日本にのびる。これらの前線や低気圧に向かう下層暖湿気や上空寒気の影響で、大気の状態が不安定となり、強い雨や激しい雨が降り大雨となる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。

④ 1項④の台風第26号は、9日にかけてフィリピンの東を発達しながら西北西進する。

⑤ 2項②の高気圧と2項①の低気圧の間や、高気圧の南縁、2項③の前線や低気圧の周辺では気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなりしける所がある。北海道地方では、2項①の発達する低気圧の影響で、7日は非常に強い風が吹き、8日にかけてうねりを伴い大しけとなる所がある。また、南西諸島では2項④の台風の影響で、8日からうねりを伴いしける所がある。全国的に9日にかけて、強風や高波に注意し、北海道地方では7日は暴風に、8日にかけて高波に警戒。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(18時から24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 波浪(明日まで)：北海道6、伊豆諸島・沖縄4、その他広い範囲で3m。③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。全国的に注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。